



石巻市中央の石巻ニューゼ、レジリエンスパーの施設内は意玄さん揮毫の「変化する力」が展示されている。



作品「ゲシュタルト崩壊」

時代を先駆ける

書道の半紙を目の前に筆を手にとると「きれいな字を書きたい!」、誰が見ても「上手!」と思う文字を書きたくなるもの。新年の書き初めなど、一般的に「きれいな文字を書く書道」とは、異なるイメージで作品を生み出し続けている意玄さんは「今まで、存在しなかった書を作り出す」と時代を先駆ける前衛的な作品のあり方を常に目指している。

そして、何でも新しいモノやコトが好きだ。人がやったことがない表現を取り入れていくためにも、周囲にアンテナを張り巡らせながら「自分の感覚や感性を大切にしている。」

墨象に魅力を感じて

書道の全国的な組織「書道芸術院」の理事を務める意玄さんは大瓜小学校、稲井中学校、石巻高校、東北工業大学を卒業。原点は祖父の勧めで始めた小学4年生にさかのぼる。書家の道を進む大きなきっかけとなったのは、高校で書道部に入部したことだ。

文字を変形させて、墨と筆で表現する墨象と出会い、その「自由さ」に魅力を感じて、卒業までの3年間、休み時間も書くほど、夢中になった。

「書道」文章「文系」なのかと思いきや、大学では理系の電子工学を専攻し、卒業後には石巻市役所に入庁。好きな書道続けながら、理系の強みを生かして、コンピュータを扱う業務に就いたが、47歳で退職し書家として本格的な活動を開始した。

SFや機械宇宙が好きということもあり「ラジウム」が好き。そして、日本酒や音楽も好み、大学生の時にはしかった英国メーカー「TANNY」のスピーカーを購入した。ジャズやクラシックなど、お気に入りの音楽を楽しみ気分転換



作品「祈り (般若心経)」



巻頭特集

新時代を走る筆

前衛書道家 千葉蒼玄 未踏領域への挑戦

発表や挑戦の機会が新型コロナウイルス感染拡大の影響で、制限されることも多かった2020年。新年は定着してきた新たな生活様式の中で、挑戦の場が再び戻ってくる年になることを願っています。さて、読者の皆さんは「新年の目標」を決めましたか？

初日の出を拝んで、初詣の参拝をしたら、初売りへ。自宅に戻ったら、うがい手洗いをし、目標や決意を書き出す「書き初め」に挑戦するのはどうでしょう。墨を付けた筆を手に集中して「とめ、はね、はらい」が上手く書ければ、良いスタートができそう。そして、気持ちを込めた分だけ、決意も強くなれば、目標達成の可能性も上がるかも。

2021年のスタートを飾る今回は、常に新たな書道に挑戦し続ける石巻市蛇田在住の書道家、千葉蒼玄さん(65)のチャレンジマインドや作品を紹介! 新年を機会に新たな挑戦をスタートするきっかけにしてください。